

教授

西原 真弓

■ 学歴

1. 1990年 Arizona State University 修士課程修了

■ 学位

1. 1990年 Master of Arts in English (修士 英語学)

■ 研究分野

1. 英語音声学
2. 英語教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 英語イントネーション
2. Bloom's Taxonomy
- 3.

■ 研究課題

1. 小学校英語教育で音声教育のために用いられるチャンツを分析対象とし、イントネーションの中でも特に日本人学習者に多い核強勢の誤配置について考察する。
2. Bloom's revised taxonomy を用いて、日本の英語教育における目標と評価の設定の仕方について考察する。

■ 担当授業科目

1. 英語学概論Ⅰ（前期）必修
2. 英語学概論Ⅱ（後期）選択
3. ライティング基礎（前期）必修
4. パラグラフ・ライティング（後期）必修
5. エッセイ・ライティング（前期）選択
6. 英検演習Ⅰ（前期）必修
7. 英検演習Ⅱ（前期）選択
8. リーディングⅢ（前期）選択
9. 英語教科教育法Ⅲ（後期）選択
10. 英語教科教育法Ⅳ（後期）選択
11. グラマー・コンポジションⅡ（後期）必修
12. 教職実践演習（中・高）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【英語学概論Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>専門的な分野になるため、それぞれの理論を、学生がわかりやすく・役に立つと感じられるよう説明の際使用する例文や状況を工夫した。授業内外で学習した事項に関する事例を探させ、クラスの皆で共有することで理解を深めた。また、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けた。</p>
2.	<p>授業科目名【ライティング基礎・パラグラフ・ライティング・エッセイ・ライティング】</p> <p>ライティング関連の授業では、学生にたくさん書く機会を与え、一人ずつ添削をしたり、コメントをしたりして個別指導をすることを心掛けた。パラグラフやエッセイの構成を理解させるために、よい例や悪い例を出し、理解しやすくした。修正がある場合はなぜ修正しないといけないのかを個々に伝えるよう心掛けた。</p>
3.	<p>授業科目名【英検演習Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>それぞれの学生が目指す英検の級が異なるため、準2級、2級、準1級とグループごとに指導をするように工夫した。自律学習ができるようになることが目的の一つであったため、自分で計画を立て、その計画に従って学習を進めるように促した。</p>
4.	<p>授業科目名【リーディングⅢ】</p> <p>長文読解のコツを掴ませることを大切にし、リーディングのスキルを教えた。スキミングやスキミング、リテリングなどを組み合わせて行ったり、直読直解する習慣をつけるよう速読の練習も行った。最も工夫した点は題材選びである。学生が興味を持ちそうな社会的、文化的なテーマで、ニュース、TED Talk、賛成/反対がある意見文などを用いた。</p>
5.	<p>授業科目名【文法・コンポジションⅡ】</p> <p>反転授業で、自宅学習をしてきたものに対し、授業内で質問を受け説明をするというスタイルで行った。難しいことをできるだけわかりやすく説明することに注力した。また、質問をしやすい雰囲気づくりを心掛けた。</p>
6.	<p>授業科目名【英語教科教育法Ⅲ・Ⅳ】</p> <p>模擬授業を中心とした実践的な学びをするⅢと、理論的な枠組みで実践を振り返るⅣが相乗効果をもたらすことができるように工夫した。学生自身でお互いに評価し合う中で、授業づくりの視点をしっかり持ち、自分の授業を振り返ることができるようにした。学生間でより効果的にコメントをしあうための環境づくりや声掛けに心がけた。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991	全国英語教育学会	
2.	2021	日本英語教育音声学会	理事
3.	2017	小学校英語教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

発行又は	著書、学術論	単著・	発行所、発表雑誌	概要

	発表の年月	文等の名称	共著の別	誌等又は発表学会等の名称	
(著書)					
1.	2024年2月	Junior Sunshine 5・	共	開隆堂	文部科学省検定済 小学校外国語科用教科書5年生用 【令和6年度版】
2.	2024年2月	Junior Sunshine 6	共	開隆堂	文部科学省検定済 小学校外国語科用教科書6年生用 【令和6年度版】
(学術論文)					
1.	2024年1月	「チャンツに見られる高前頭部の問題」	共著	『英語教育音声学』第3号, 41-52.	日本人英語学習者が発話する英語の特徴として、高前頭部の誤用が指摘されている。本研究では、高前頭部の問題を概観した上で、小学校の英語教育で広く利用されているチャンツのイントネーションにも誤用が見られることを教科書分析を通して指摘した。正しく作成されたチャンツを使い、プロソディ教育をすることが、日本人学習者の高前頭部問題を解決するきっかけとなりうる可能性を示唆した。(共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
2.	2024年3月	改訂版タキソノミーに基づく小学校外国語教育における目標の分類	単著	『西南女学院大学・西南学院大学短期大学部教職論集』第2号	学習指導要領が改訂され、目標の具体化が求められる中、ブルームの改訂版タキソノミーを用いて小学校外国語活動における言語活動を分類することを提案した。日本ではこれまであまり『改訂版タキソノミー』を用いた英語教育の研究がなされてこなかったが、この分類法が英語の授業改善における具体的な方向性を提供する上で有用であることを示唆した。
3.					
(翻訳)					
1.	2024年3月	英語のイントネーション - 話し言葉のメロディー	共著	Dwight Bolinger 著 Intonation and Its Parts: Stanford University Press (1986)	英語のイントネーションに関する Bolinger の研究の集大成といえる本である。 担当箇所 2, 3, 6章
2.					

3.					
(学会発表)					
1.	2023年5月 21日	チャンツに見られる prehead の 問題	共同発表	英語教育音声学 会全国大会	チャンツは英語表現に慣れ親しみ自然な英語のリズムを習得するのに効果的である。しかしながら、使用するチャンツのリズムの適切性を検証する研究は多くない。本研究では、教材内のチャンツのリズムを核強勢の誤配置の視点から検証する。核強勢の誤配置はコミュニケーションにおいて相手に誤解を与える原因となる。研究結果として高前頭部の強調を含む問題点を明らかにしチャンツの作成や指導における留意点を提案する。(共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
2.	2023年8月 22日	チャンツのリズム再検証ーコミュニケーションを意識してー	共同発表	小学校英語教育 学会全国大会 (京都大会)	日本で使われている教材や動画番組におけるチャンツと、海外で出版されている英語教材におけるチャンツを比較した研究である。日本で創られるチャンツは圧倒的に代名詞で始まるものが多く、高く始めているものが散見される。対して、海外で出版されているチャンツでは、代名詞で始まるものが相対的に少ないだけでなく、代名詞に核強勢の配置が少ないことが明らかになった。(共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額	備考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年8月22日	諫早市中学校英語教員研修	講師
2.	2023年8月23日	長崎市小学校外国語部会教員研修	講師
3.	2023年10月25日	松浦市中学校英語教員研修（オンライン）	講師
4.	2023年10月31日	五島市中学校英語教員研修（オンライン）	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023.4-2024.3	就職委員	
2.	2023.4-2024.3	FD 委員	
3.			